

「アサヒカメラ」2020年4月号

## 向井康二 巨匠と撮る白熱レッスン 第1回 × 渡辺達生 カメラ初心者のみなさんのための解説

カメラ好きで知られる Snow Man の向井康二さんが、カメラと写真の専門月刊誌「アサヒカメラ」で、連載をスタート。向井さんが“読者代表”となって、第一線の写真家から撮影の心構えやテクニックを学んでいくスタイルの「巨匠と撮る白熱レッスン」、2020年4月号に掲載された第1回は、渡辺達生さんにポートレートの構図を中心に話を聞きました。

カメラや写真には詳しくないけれど、向井さんが渡辺さんと話している内容が理解できるようにしたい、という方のために、専門用語と会話の意味を解説します。

\* \* \*

■14ページ

### ライカM3

ライカは、ドイツの光学機器メーカーだったエルンスト・ライツ社のカメラの名前。現在でもライカカメラ社が後継機を発売している。M3は1954年に発表された35mmフィルム用のカメラで、いまなおファンが多い。

### 沼にハマるといってください

カメラを始めるとハマりやすい「沼」。一度足を踏み入れると、ついハマって簡単には抜け出せないことに由来している。レンズ交換式のカメラ〈レンズを交換できるカメラのこと〉で、交換用レンズを次々と買いたくなる「レンズ沼」が有名。ほか、ボディ〈カメラ本体〉や関連用品にも用いられ、ライカは特に「沼」にハマりやすい。

### 一眼レフ／二眼レフ

20世紀半ばからレンズ交換式カメラの主流になった方式。レンズから入った光を鏡やプリズムを介して〈レフレックス〉、ファインダー〈覗き窓〉で、見られるようにしたカメラ。撮影とファインダーで同じレンズを使うため「一眼レフ」と呼ばれる。撮影用のレンズとは、別のレンズと鏡を使ったファインダーがあるのが「二眼レフ」。なお、鏡を使わず、イメージを電子的に映像に変換してファインダーやモニターで確認できるようにしたのが「ミラーレスカメラ」または「ミラーレス一眼」で、2008年に登場して以来、シェアを伸ばしている。

### 銀塩

フィルムなど銀塩（ぎんえん／ハロゲン化銀）を感光材料として使用する写真を「銀塩写真」とも呼ぶ。写真用フィルムは「銀塩フィルム」、フィルムカメラは「銀塩カメラ」。

### Wi-Fiでスマホやタブレットに送って保存／

Wi-Fiの転送だと小さいサイズでの保存になっちゃう

最新デジタルカメラの多くにWi-Fi（無線LAN）やBluetoothの通信機能があり、スマートフォンやタブレットなどに撮った写真を転送できる。ただし、画素数が多いと（後述：高画素）、写真のデータが大きくなり転送に時間がかかるため、自動的に小さいサイズに変更される場合がある。

## ハードディスク

HDD（ハードディスクドライブ）。パソコンでデータを保存する機械。パソコンに内蔵されているものと、別途つないで使う「外付け」がある。最近では、HDDの代わりによりデータの読み書き速度が速いSSD（ソリッドステートドライブ）も普及してきた。この場合の「ハードディスク」は、外付けタイプを指している。

## ■15ページ

### 逆光／半逆光

被写体の後ろ（カメラの正面側）からさす光を「逆光」、被写体の斜め後ろ45度くらいからさす光を「半逆光」と呼び、いずれも人物撮影に向けた光。逆光では、背景と人物に明暗差が生まれ、人物の輪郭が光のなかで浮き上がってきれいに見える。半逆光は、被写体の立体感を表現できる。

向井さんはこの光の特徴を理解し、逆光や半逆光で人物を撮影しているということ。

### 顔をアンダーにして

この場合の「アンダー」とは、露出を暗めに設定すること。Aの写真で、顔を適正な明るさにすると、背景の光や景色が明るく（露出オーバーになりすぎ）、真っ白になってしまいます。そこで、向井さんは、あえて顔の部分がやや暗くなるように露出を設定して、夕陽のあたる表情と雰囲気を出しながら、背景も写るように工夫しています。

### ローアングル

低い（ロー）角度（アングル）。被写体を仰ぐように下から撮影する撮影技法。下から上を見上げる構図で、被写体をダイナミックに見せる効果がある。

向井さんが撮影したBの写真の場合は、脚をより長く見せる効果が出ています。

### ISO感度／

僕もISOはけっこういじってます、シャッタースピードがかなり変わりますから

ISO感度は、どのくらいの光の量で記録できるかを示す数値。「イソかんど」と読まれることが多い。ISO感度の数値を大きくすれば（＝高感度にすれば）、暗い場面でも速いシャッタースピード（シャッター速度とも：後述）で撮影できるようになり、ブレを抑えられる。

向井さんは、シャッタースピードを速くしてブレを防ぐために、ISO感度を上げているということ。

### ISO感度を上げても画質にそれほど影響が出ない／

### 3200くらいならまったく問題ないと思う

ISO感度は大きくし過ぎると画面にザラつき（ノイズ）が出る。デジタルカメラでISO

感度を上げると、センサーが受け取る信号が増幅することになり、それに伴いノイズも増幅されてしまう。デジタルカメラの進化により、最近は感度を上げてノイズが目立ちにくくなった。最新のデジタルカメラであればISO3200くらいなら「問題ない」。ただし、カメラの機種によってもノイズの量は違うし、どこまで画質を求めるかにもよるので、自分にとって「問題ない」感度を見極めるといい。

## ■16ページ

### 絞り/シャッター速度

写真を撮すには、一定の光の量が必要。この露出は、「絞り」と「シャッター速度」、「ISO感度」の組み合わせで決まる。絞りを調整して光を多く取り込めば、そのぶんシャッター速度を速くできる。絞りはF値（えふち）で表し、この値が小さいほど一度に光を当てる量が多くなる。F値を小さくすることは絞りを「開く」といい、そのレンズで一番小さい値にすることを「開放にする」（後述）という。また、絞りには、ピントが合っ見える範囲を調整する機能もある。絞りを開けば被写体の背後や手前のものをボカせる（被写界深度が浅くなる）。反対に、F値を大きくすることを「絞る」といい、被写体にも背景にもピントを合うようになる（「被写界深度が深くなる」）。

向井さんは、「明るい絞り」、つまりピントを合わせた被写体以外をボカす表現が好き、ということ。

### 絞り優先AE

「絞り」の値を設定すると、カメラが自動的に適切な「シャッター速度」で撮るモードのこと。AEは「auto exposure（自動露出）」の意味。ほか、シャッター速度を設定すると、自動で適切な絞り値になる「シャッター速度優先AE」、絞りもシャッター速度も自動の「プログラムオート」、どちらも自分で設定する「マニュアル」モードがある。いずれの場合も、ISO感度は自分で設定することも、オート（自動）にすることもできる。

向井さんは、マニュアルで撮影することもできるものの、人物を撮るときは、撮りたいときにさっと撮れるように、設定に時間をかけなくて済む絞り優先AEに設定しているそうです。

### レンズの一番明るい絞り（開放）

レンズの中の羽根を開閉することで光の量をコントロールするのが絞り羽根。これを一番開いたのが「開放」または「開放絞り」。「開放絞り値」はレンズによって異なり、値が小さいほど「明るいレンズ」と呼ばれ、高価。

レンズ前面の周囲に「1：2.8」「1：4」などと表記されている「2.8」「4」の部分が開放絞り値なので、カメラをお持ちの方は、自分のレンズをチェックしてみてください。

### 前ボケ

ピントを合わせた被写体より手前にあるものがボケて写っていること。反対に後方や背景がボケていることは「後ボケ」「背景ボケ」と呼ぶ。

写真Dのキャプションに「絞り値はf2」とあるように、絞りを開いているので、手前の菓子が前ボケしています。

### もう少し絞ったほうがいい

人物だけを目立たせたいのであれば背景ボケは有効ですが、旅先の空気感も出したいのであれば、背景もある程度見えたほうがいい。そのために絞りをもう少し絞って、被写界深度を深くし、人物だけでなく、背景にも少しピントが合うようにするといい、という渡辺さんのアドバイスです。

### 広角レンズ

写る範囲が広いレンズのこと。一般的に、50<sup>mm</sup>のレンズが「標準レンズ」とされ、おおまかに、標準より広い範囲が写せるレンズ＝焦点距離の短いレンズを「広角レンズ」、狭い範囲が写せるレンズ＝焦点距離の長いレンズを「望遠レンズ」と呼ぶ。

### 24<sup>mm</sup>の単焦点

24<sup>mm</sup>は広角レンズにあたる。焦点距離を変えられる（画角を変更できる）ズームレンズと違い、焦点距離が決まっていて変えられないのが「単焦点」レンズ。

### メンバーを撮るには広くていい

この場合の「広くて」は「広角で」の意味。向井さんがメンバー8人を一枚の写真に収めるには、写る範囲が広いレンズを使わないと難しいためです。

### 遠かったら、僕が動く

広角レンズは、写る範囲が広いので、被写体を大きく撮りたいなら、近づいて撮る必要があります。「遠かったら、僕が動く」は、「メンバーが画面内で小さく写ってしまう場合は、向井さん自身で動いて近づいて大きく撮る」という意味です。

### ■18ページ

### 連写

シャッターボタンを一度押しただけで、連続して写真が撮れる撮影モードのこと。動く被写体の決定的シーンを撮るのに向いている。

### シングル

シャッターボタンを一度押ししたら、一枚だけ写真が撮れる撮影モードのこと。画角や構図を丁寧に決めて撮る場合に向いている。

### 高画素

「画素数」が多いこと。デジタルカメラでは「光を受け取るセンサーの数」を指し、大まかに言えば、その数が多い＝高画素なほど、細部を表現できる。最大画素数はカメラによって異なり、「高画素機」という場合は、4000万画素以上で撮影できるデジタルカメラを指すことが多い。ちなみにiPhone11シリーズで約1200万画素。

### トリミング

画像の一部分の範囲を切り出すこと。高画素なカメラの写真なら一部を切り出しても、画像がそれほど粗くならず済む。

## フレーミング

撮影する際に、撮影範囲や構図を決定すること。

## フレームアウト

写る範囲（フレーム）からはみ出すこと。

**★★グラビアページの撮影データの読み方** [アサヒカメラでは、レンズの開放絞り値をFと大文字で、実際に撮影した際の絞り値をfと小文字で記載しています]

キヤノン EOS 5D Mark IV ・ EF24～70<sup>mm</sup>F2.8L II USM ・

↑

↑

渡辺達生さんが使用したカメラ

使用したレンズ

焦点距離66<sup>mm</sup> ・ f6.3 ・ 125分の1秒 ・ ISO200

↑

↑

↑

↑

撮影した画角

絞り値

シャッター速度

ISO感度

\* \* \*

連載第2回となる5月号からは、初心者向けのページも展開予定です。みなさんも、ぜひカメラを手に、向井さんが見ているファインダー越しの世界を、一緒に楽しんでください。